

告 辞

桜のつぼみがほころび、暖かな春風が新しい季節の到来を告げる今日、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

佛教大学の教職員を代表し、心からお祝い申し上げます。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆さまにも、深く敬意を表し、共に喜びを分かち合いたいと思います。

本日から皆さんは、大学生・大学院生・別科（仏教専修）生として、佛教大学という新たな学びの「場」に身を置きます。本学は、1912年の開学以来、「仏教精神を根幹とした人格の陶冶」を理念に掲げ、113年の歴史を紡いできました。

先ほどの法楽など仏教的儀礼を見て、まずいところに来たと感じているかもしれません。本学では毎朝読経の声流れます。大丈夫です。すぐに慣れます。4年後にはお経が聞こえないと寂しいと感じるようになるかもしれません。

仏教精神とは決して古臭いものではなく、現代においても私たちが大切にすべき「生きる指針」です。

それは、「感謝」、「生命の尊重」、そして「多様性の受容」という、現代社会においてより一層求められる価値観に他なりません。本学は、これまでこの精神を受け継ぎながら、「自分を大切にし、他者も大切にできる人材」を社会に送り出してまいりました。

佛教大学はこれまでの伝統を大切にしながら、さらなる進化を遂げます。

その一つとして、本学の新しいロゴマークとタグラインが本日より正式に始動します。

新しいロゴマークはご覧いただけただでしょうか。佛教大学の「佛」という漢字と、アルファベットの「B」がモチーフとなっており、人と人が、手を差し伸べ互いを支え合い、つながる様子をイメージしています。ボールドのゴシック体をベースにして、堂々と力強く成長していく姿を表現しています。また所在地の「紫野」に由来する紫色のなかでも、知的で洗練された印象をもつ、紺に近い青紫色「BUKKYO PURPLE」を用いています。大学名ロゴタイプとの調和を考慮してデザインされています。

「ありがとうございます、あふれる世界を。」

これは、佛教大学が目指すべき姿を、一言に凝縮したメッセージ・タグラインです。

「ありがとう」は、誰もが日常的に使う言葉ですが、その本質を深く考えたことがあるでしょうか。語源は「有難し（ありがたし）」— つまり、「有ることが難しい」「稀である」という意味です。「人としてこの世に生まれることは大変有難し」、「稀」であるという仏教に由来する言葉です。

私たち人間は、なければ欲しいと感じ、あってももっと欲しい、他の人には何もあげたくないという欲張りな存在です。そのような私たちが、人にもものをあげる、親切にする。考え

てみると、滅多にないことです。その意味でものをいただいたり、親切にしてもらったりした時、あることが難しいことをあなたは私にしてくださいました。「ありがとう」と言って感謝の気持ちを伝えるのです。

私たちが普段、当たり前前に感じていることも、実は奇跡の連続です。

現代社会では、テクノロジーが発展し、AI やロボットが多くの仕事を担うようになっていきます。しかし、「ありがとう」という言葉だけは、人と人とがつながることで生まれるものです。100年後の未来においても、この言葉の持つ価値は変わりません。

佛教大学は、この「ありがとう」を世界に広げ、社会に貢献できる人材を育てることを使命としています。皆さんにも、日々の学びや出会いを通して、「ありがとう」があふれる世界を創る一員になってほしいと願っています。

本学での学びは、単なる知識の習得にとどまりません。仏教精神に触れ、自己と向き合い、時代の変化に柔軟に対応する力を身につけることができます。

京都という歴史と文化が息づく街で学ぶこと、少人数制の授業を通じて個性を尊重される環境に身を置くこと、多彩なクラブ・サークル活動や地域貢献を経験すること。これらすべてが、皆さんの成長を後押しします。

この4年間の時間は、皆さんの未来を形作る大切な期間です。知識を深めることはもちろんのこと、「人とのつながり」を大切にし、互いに支え合いながら学びを進めてください。そして、どんな時も「何ができるのか」「何をすべきか」を考え、実践する姿勢を忘れないでください。

これからの大学生活は、新たな挑戦と成長の連続です。時には壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、本学には、皆さんを支える教職員や友人の存在があります。そして広い世界への扉が開かれています。勇気を持って、一步を踏み出してください。

佛教大学は、皆さんの「学びたい」という想いに応え、共に歩む場所です。夢を持ち、それを叶えるために努力し続ける皆さんを、私たちは全力でサポートします。

新入生の皆さん、改めまして、ご入学おめでとうございます。

今日から始まる新たな学びの旅が、皆さんにとってかけがえのないものとなることを心から願い、私の告辞といたします。

令和7年4月1日

佛教大学長 佐藤 和順